

## 会 議 記 録 (概 要)

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成 23 年度第 1 回市民啓発部会
開催日時	平成 23 年 6 月 24 日 (金) 午前 10 時～午前 11 時 10 分
開催場所	高松市役所 33 会議室
議題	(1) 部会長・副部会長の選任について (2) モビリティ・マネジメント実施計画について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	多田会長，宮本副会長，川上委員，横山委員，野口委員（代理：小西）， 滝川委員，山本委員（代理：河本），天野委員（代理：井口） （欠席委員 1 名：土井委員）
傍聴者	なし
担当課および連絡先	交通政策課 087-839-2138

### 審議経過及び審議結果

次のとおり，市民啓発部会を開催した。

#### 1 議事の協議について

次の議事について協議し，下記の結果となった。

##### (1) 部会長・副部会長の選任について

高松市総合都市交通計画推進協議会部会運営要領第 5 条第 1 項の規定により，会長・副会長を互選した。

会 長 多田委員

副会長 宮本委員

##### (2) モビリティ・マネジメント実施計画について・・・事務局より説明

以後審議

(会 長)

只今の説明に対し，意見，質問などがあれば，お願いしたい。

(委員)

高松市でやろうとしている実証実験の主旨は、単に公共交通の利用促進ではなく、新しい交通体系が成立するかどうかを図るものであると理解している。都心部やサンメッセへ車で来ている方に公共交通を選択してもらおうとしても、実験の目的・主旨がチラシからは見えない。

他都市でやっている事例をみても、うまくいってないのは利害関係の調整である。今回は、長期間の実証実験ということで全国でも稀だと聞いている。長期間継続していくためには、元々の意味を市民にアピールすべきである。

(事務局)

ご指摘のように将来的には、ちょいのりバスはLRT、バス&レールライドは鉄軌道化を視野に取り込むものであり、それについては別途検討したい。今回の社会実験では、公共交通の利用促進の意味も含めて実施するものである。MMと社会実験を併せて実施したいと考えている。

(副会長)

せっかく社会実験をするのであれば、何故これをするのか、市民に理解してもらうことが必要。カーフリーデーなどの機会を利用し、そこでシンポジウムを開催するなど啓発していくのがいいと思う。

また、協賛金の額についてはどのように考えているのか。

(事務局)

協賛金については、企業全体でやるところもあれば、個人もある。企業の規模や考えに応じて柔軟に対応していきたい。

(会長)

実験を始める前にシンポジウムの実施などを考えているか。

(事務局)

シンポジウムは2年前にサンポートで行ったが、今回のシンポジウム開催には予算上の制約があり難しい。カーフリーデーを活用してはという提案もあったので、是非検討したい。

(会長)

説明が複雑。周知の仕方としては非常に分かりづらい。市民としても意味は理解しても、何をしたら良いかが伝わらない。期間が短い中で、周知効果がどこまで期待できるかわからない。全体的にもう少し整理していくべき。関係者との調整もこれからということだが大丈夫か。

(事務局)

実験の主旨については、アンケートを行っていく際に伝えていこうと考えている。

本日の会議で、MMの方向性について御協議いただき、資料2、3については修正を加えて次回提示したい。

(委員)

資料2のチラシはどういう場面で活用しようと考えているのか。

また、お年寄りにも配慮をし、字を大きくするべきである。バス、電車を利用すれば事故は少なくなるので、そうした効果は明確に伝えてもらいたい。

(事務局)

資料2はアンケートと同時に配布しようと考えている。内容についてはこれからもう少し検討していく。

(委員)

居住者MMのバス&レールライドについて、駐車場は相当数確保されているのか。

(事務局)

サンメッセの駐車場を活用したいと考えている。台数については応募の状況を見て、適宜増やしていくことも考えている。

(委員)

利用者の多いところをターゲットとするより、公共交通を利用しないと市内へ出てこられない方への配慮が欲しい。告知や周知にはコミュニティセンターを利用するのは有効である。その際、目的を明確に伝えないといけないが、今のままでは伝わらない。例えば、「ちょいのり」といっても一般の人には意味がわからない。

(事務局)

市の目指すべき大きな姿を示しつつ、社会実験の目的・必要性を伝えるべきである。あまり情報量を多くするのはよくないが、イラストを用いる等しっかり市民の皆様にお伝えしたい。

(副会長)

時間的な制約はあると思うが、周辺部だけでも地元への説明会ができないか。

(事務局)

地域に向いて、説明をしたいと思っている。インテリジェントパークで活用できる会があるので、前向きに考えたいと思う。

(委員)

きちんとした道筋を立てないと伝わらない。公共交通利用促進だけでは説明が不足するので、全体像を説明したうえで実証実験をしますという組み立てをすべき。

(委員)

MMの短期的な目的と長期的な目的がわからない。

アンケートは短期的な利用促進の目的で、協賛事業者の参加は中・長期的に取り組むイメージで良いか。

(事務局)

意識変容を図ることが目的であるMMの中に、社会実験や協賛を組み込み、複合的に実施することとしている。実験で終わることなく、地域や企業が支えるという仕組みづくりが重要なので、そこをきちんと押さえた上で進めたい。

(会長)

今の方法では説明する側も説明しづらいし、受ける側もいつまでに何をやればよいか分かりづらい。長期的な視点で行うのであれば長期的なメリットを明確にできないと、企業側が参画しづらい。地域を支える仕組みづくりと両面でやろうと思うと、非常に難しい。

企業だけでなく、市や県の職員の皆さんにも積極的に参加してもらいたい。

何故社会実験をやるのか、ということ事務局ではきちんと整理してもらいたい。

(3) その他・・・事務局より第2回会議の日程について、7月25日(月)午前で提案  
了承

閉会

以上